

## 【企画書】

### 学校がアートとエンターテインメントの理想郷を作る。

『えんぶ☆TOWN』を使って、学校が中心になり“表現に関わる全てのセクションの人たち”と協働して、新しい仕組みやサービスを開発し、自分たちの手で「楽しみながらみんなが得をする場所」理想郷をつくりだしたいと考えました。

#### 【『えんぶ☆TOWN』とは】

『えんぶ☆TOWN』は“作る人”と“観る人”が自由闊達に行き交い、情報・意見の交換、相互支援、商品流通など、それぞれの目的や興味を通じて参加者のつながりを深め、たのしく、お金も稼げる、自由度の高いコミュニティ作りをめざすonline上の実験都市です。（株）えんぶが企画・運営、その第一段階がほぼ終了しました。



第二段階では、ジャンル（演劇・映像・音楽・文芸・写真・美術・etc）を増やし、多様な人たちがシームレスに交わり刺激しあえる場所をつくり出します。また、ショッピングモールやフリーマーケットの運営など参加者の直接役に立つ販売システムを開発して、商業的な分野でも事業領域を広げます。

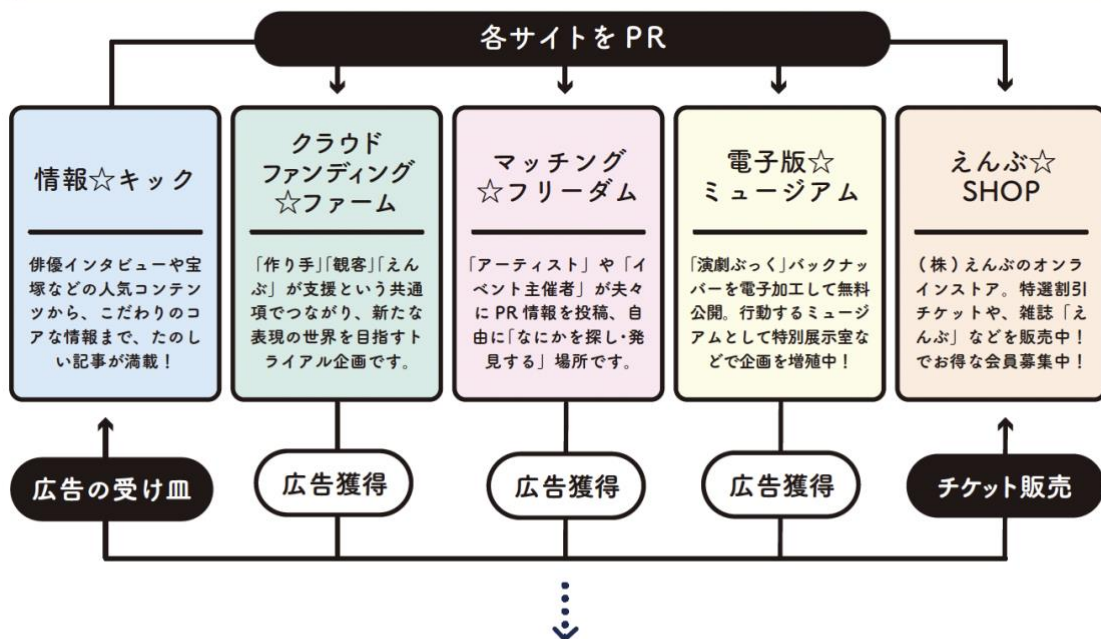
## 『えんぶ☆TOWN』の構成

『えんぶ☆TOWN』は5つのセクションに分かれています。それぞれのパートが有機的につながり、エポックの連鎖を創り出したいです。ひとつひとつの出来事をたのしみ、積み重ねながら“善き場所”に近づいて行きたいです。

# えんぶ★TOWN

## Art & Entertainment

『えんぶ☆TOWN』は「作り手」と「観客」が自由に行き交うアートとエンタテインメントの街です。表現に関わる全てのジャンルの人たちといっしょに、みんなが「楽しみながら得をする場所」をつくりだしたいという実験都市です。



## 今後の展開

ジャンルを増やす：映像・音楽・文芸・写真・美術・ゲーム・伝統芸能など  
グローバルな展開：日本各地のミニマムな情報から、全世界のアートが対象  
販売システムの開発：ショッピングモール、セレクトショップ、フリマの運営  
情報の発信：情報交換から、TVや新聞などのコミュニケーションツールの作成

## 本企画の特色①

### 【ここでしか出来ない奇跡のような組み合わせ】

『えんぶ☆TOWN』を使って、学校が中心になり、主催者・表現者・観客など“表現に関わる全てのセクションの人たち”でコミュニティを作り、自分たちの“理想の社会”を自分たちの手で運営する。「表現の世界」だからできる唯一無二の計画です。

### 【「表現の世界」には決定的な共通項がある】

“よい作品をつくりたい”という表現者の思いや、それに伴う困難。そしてその“作品を享受する喜び”は全てのジャンルで共通しています。その共通項こそが“街作り”の大きな基盤になります。また商業的にも私たちが対応できる規模のものが多く、協働作業を通して対応しやすいと考えています。

### 【立場の違いを超えて多様な人たちが交わる】

本企画の大本になるテーマで、計画を実行していく中で「学校は表現世界のダイナミズムに触れ、表現世界は学校の清新さを感じる」真摯に“表現”と向き合っている人たちが立場の違いを超えて交わることで、すべての参加者が刺激し合い成長していける場所をつくり出したいです。

### 【一時的なものではない永遠に続く事業】

本企画はその時々最善の形を追求しているので終わりはありません。各分野で、一人ひとりが、ひとつずつ自分の興味のあることを積み重ねることで理想に近づきます。「まずはいい日を積み重ねていきましょう」

### 【文化芸術支援の一翼を担う】

現在は国・公的機関が主な支援の柱ですが、それに加えて『えんぶ☆TOWN』の各システムを使って“作り手”や“観客”など当事者同士の目線で、きめ細かく幅広い自由度の高い恒常的な支援体制を自分たちの手で創り出します。

## 本企画の特色②

### 【企画の信用性が増し、外部と協働することで大学の存在が際立つ】

実験都市という企画に不安定なイメージを抱く方たちに対して、学校と協働することにより社会的な信頼を得、そのイメージを払拭して活動の自由度が増えます。そして大学は表現世界と向き合い、当事者として理想の世界を追求するという基本的な姿勢を強調することが出来ます。

### 【“協業”でアイデアの深化や経費を削減】

“協業”が『えんぶ☆TOWN』の重要なコンセプトです。協業先とは、お互いに持っているノウハウを活かすことで、アイデアの深化や人の交流、経費負担の軽減などの利点があり、無理なく事業領域を広げることができます。

### 【すでにあるコンテンツを整理・再構築】

各コンテンツはすでに経済的にも成立している分野として存在しますが、さらに「“表現”をベース」にまとめ整理・再構築することで、カテゴリーを越えた今までにはない「主催者」「表現者」「観客」「学校」に止まらず、「世界中の関連する業界や街の人々」が主体となり、経済性を伴った自立した豊かなつながりを作り出せると考えています。

### 【「地域起こし」を「表現界起こし」に置き換えてみると】

「地域」を「表現社会」に差し替えてみると、この部分で本企画は行政の施策と共通する部分が多々あります。が、あくまでも自主独立の仕組み、既成の価

値観にとらわれない企画・運営の方法がエネルギーの源となっています。

※地域（表現社会）⇔相互理解して協働⇔教育機関（大学）+えんぶ☆TOWN

## 学校のメリット①

### 【表現世界の真っ只中でのリーダーとなる】

本企画を実行することで、学校は当事者としてリアルな表現社会と真摯に向き合い、理想の世界を追求するという進取の精神と自主独立のイメージをより強化することが出来ます。

### 【学校は実習のポリシーがそのまま活かせる】

学校はいまある学習の構造を活かしながら、その補完部分を本企画で強化し、学生やOBの役に立ち、さらに改良して一般の表現社会にも貢献します。『えんぶ☆TOWN』は主にインフラ部分の強化に注力します。ここで理想の「表現社会」がコンプリートされます。

### 【子どもからお年寄りまで幅広く参加できる形】

学校と『えんぶ☆TOWN』が中心になり、在校生やOBのみならず（参加者をオープンにして）表現を志すプロ・アマや老若男女を対象にした幅広いワークショップ的な試みで、“芸術を使った子どもの教育や生涯学習”的な展開も出来ます。この部分での社会貢献度は限りなく広がります。

### 【自分たちのための社会貢献①】

世の中、少子化で「〇〇ばなれ」は必然的に起こります。その中で“たのしいワークショップ体験”と“おもしろい作品を観る”が表現世界へ子ども達を誘う大きなポイントだと考えています。待機児童が、絵を描いたり、演劇をしたり、歌を唄ったりして親を待つ。待機するための時間ではなく、たのしむ時間になるとすばらしいと思います。学校だから出来る飛びきりの情操教育です。

## 学校のメリット②

### 【自分たちのための社会貢献②】

高齢化社会です。現在も様々な表現を使つてのワークショップが各施設で行われていますし、蜷川幸雄さんに代表されたお年寄りの劇団などもあります。さらに学校が出来ることがたくさんあるような気がします（曖昧ですみません）。お年寄りは今を生きる現役世代です。『えんぶ☆TOWN』にもぜひ参加していただきたいです。

### 【ミニマムからマキシマムな展開で視野を広げる】

日本全国&全世界とコミットし、情報のみならず世界中から学びの場を求める人たちと積極的にコラボレーションして、学校のさらなる活性化に繋がります。また各地の人たちと協働していくことで、実際の「地域起こし」とも繋がっていくことができます。

### 【学生のスタートアップの起点になる】

学生が業界との関わりの中で、インターンシップを超えた経験ができ、その経験を踏まえて新しいビジネスへの挑戦など今までにないスタートアップの起点となることもできます。また、学生を含めたアーティストが『えんぶ☆

TOWN』のシステムを利用して作品を発表して真価を問い、作品の質を高めチャンスを広げ販売に繋げる、自立を促進することができます。

### 【えんぶの電子本「演劇ターン」の利用】

電子本「演劇ターン」（休刊中）のパターンを使って映像・音楽・美術など様々なジャンルのアーティストともコラボレーションし、学生の感性を活かした総合的な雑誌づくりなど幅の広い展開をしたいと考えています。学校のPRツールとして電子版パンフレットを作ることも出来ます。

## 経済圏をつくる①

### 【販売システムを開発して経済活動の場を広げる】

持続するためには経済の発展も必要です。積極的に情報交換の場をつくり出し、だれでもが参加できる販売システムを開発して、表現者やその周辺の人々（企業も）が仕事を獲得したり、作品や商品を販売して経済的な活動ができる場を広げます。

<例えば>

①フリーマーケットやショッピングモールを作って、作品、本、メイク用品、服飾などの関連商品や“技術やアイデア”なども販売します。

②参加者の役に立つような（他分野の）良質な商品の市場も視野に入れて商圏を広げます。

### 【ジャンルを増やして新たな市場をつくる】

ジャンル（演劇・映像・音楽・文芸・写真・美術・etc）を増やします。ジャンルの範囲が広がるので事業領域も広がり、新たな市場が生まれます。

<例えば>

- ①表現分野の販売関連の方との協業では、先方が持っているコンテンツを活かせば、そのまま事業の拡大と顧客へのサービスが生まれ、事業としての収益を追求できます。
- ②ジャンル別に個人や組織が得意な分野を分担して進めることによりコアなアプローチを取ることできます。
- ③現在行っている事業領域の拡大、顧客へのサービスなどで新たな事業展開をテーマに参加することもできます。文化事業に対しての貢献として企業の評価が上がります。

## 経済圏をつくる②

### 【現存のシステムのアレンジで経費を削減】

“販売システムの多様化”と“ジャンルを増やす”、両方併せると大きな商圏が生まれ作業量が増えますが、現存の『えんぶ☆TOWN』のシステムをアレンジしていくので、効率よくシステムを構築することができます。

### 【異分野のみなさんとも積極的に“協業”します】

情報通信技術（ICT）を中心にした異分野のみなさんとも積極的に協業して、新しいサービス、展示の仕組み・販売システムの開発などで商品・商圏を広げ、収益に繋がる形を開発します。本企画はベーシックな形で構成されていますが異分野のみなさんに参加していただくことで、新しい世界を切り拓いていきたいと考えています。



.....

## 【今後の運営】

第一段階までは（株）えんぶが単独で作ってきましたが、弊社だけで進めるには、金銭、アイデア、人材などあらゆる面で限界があります。ここからは学校を中心に各分野のみなさんと協業して、わたしたちが想像する遙かな先の地点に進んで行くことができると考えています。また街のタイトルの『えんぶ☆TOWN』ですが、よきときに変更したいとも考えています。ぜひご一緒にいただけますと幸いです。

## 【なぜこの事業を】

（株）えんぶ代表の坂口（1986年『演劇ぶっく』を創刊）が、コロナ禍のなかで大きな被害を受けた「表現世界と自社の再生」を重ね、文化支援活動の一端を担うコミュニティを作りたいと考え、事業再構築補助金なども利用してアートとエンタテインメントの街『えんぶ☆TOWN』を構築、現在第一段階がほぼ終了しました。

## 参考資料

### 【文化庁の「文化芸術団体の自律」に関しての一部です】

この企画案を作っている途中で文化庁の下記の文章に出くわしました。もちろん今回ご提案しているものは学校が自立して進めていくもので、直接は関係がありませんが、なんとなく同じような文言が出ていたので参考までに置いてみました。

[https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka\\_gyosei/bunka\\_keizai/94057401.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/bunka_keizai/94057401.html)

文化庁

## 文化芸術団体の自律的・持続的運営促進事業

### 事業の目的

本事業は、文化芸術団体が自律的に課題を解決し、持続的に発展していくことを目指し、企業再生や地域再生などで広がりつつある伴走型支援（専門家等が文化芸術団体等との対話を通して、課題抽出や団体等の価値の明確化を行い、協働して課題の解決と価値の最大化に向けて取り組んでいく支援）を通して、効果的な運営支援機能の在り方を実証的に明らかにし、その基本となる手法と体制を設計・確立することを目的としています。

株式会社えんぶ

代表取締役 坂口真人

〒161-0001 東京都中野区中野 3-27-16

TEL : 03-3229-2424 FAX : 03-3229-2423

sakaguchi@enbu.co.jp